

農業について



お米の安定供給をめざして

2024年夏以降、米が店頭から消えるという事態や生協でもお米のお届けができない・点数制限をせざるを得ない状況となりました。よどがわ市民生協では、日本政府へ長年にわたり米の生産を抑制する政策の見直しを求める意見表明を2025年1月に行いました。(P.5参照) また、2025年5月、事業と一緒にすすめるおおさかパルコープの役員のみなさんとともに岩手県遠野市を訪れ、『遠野産米産地協定』締結式に同席しました。米の産地拡大だけでなく、生産者と組合員との交流などを通じ、農業を

知り・学び、農業従事者への理解・応援を広げていきましょう。



内山副理事長
生産者の「作ったら必ず買ってほしい」という願いと、生協の「必ず利用するので安心して作ってほしい」という約束を通じて、お互いの信頼関係を築くことが重要だと感じました。

「我らよどがわ縁農隊」

これまで組合員より「都市部では田んぼや畑が減り、子どもたちに農業体験をさせたいが難しい」「貸農園も手ごろな場所がなく、自宅もマンションで家庭菜園がなかなかできない」などの声が寄せられていました。そこで「より多くの組合員が気軽に農業に参加し、生産者と交流し、学ぶ機会を増やしたい」という想いで、田植え・稲刈り企画でお世話になっている『茨木市上

音羽営農組合』協力のもと【我らよどがわ縁農隊】が2024年度より始まりました。今後、茨木市上音羽を始めとする多くの産地に活動の輪を広げていきたいと考えています。そのためには、皆さんの協力が必要です！農業活動に少しでも興味がある人、気になる人、どなたでも大歓迎！一緒に農業ボランティア活動の輪を広げていきましょう！



LINE登録は
こちら



茨木市上音羽農業ボランティアのこれまで



茨木市上音羽
農家の現状

生産者の高齢化や後継者不足による**“人員不足”**が大きな今後の課題となっています。よどがわ市民生協で何か解決に向けて支援できないかと検討しました。



よどがわ市民生協
の取り組み

2022年より職員がボランティアで参加 (^ ^) /
大豆の種植えや収穫、三島ウドの株植えを行いました♪



生産者の声

「ボランティアを通じて多くの人に、農業の現状や苦労だけでなく『楽しさ』も味わっていただけたと思います。少しでもお手伝いいただけたら助かります！」



食料の安定供給と自給率向上を求める署名への取り組み

国内の食料自給率(カロリーベース)は約38%と低水準で推移しており、特に主食である米は生産者の高齢化・離農、政策転換、異常気象などにより安定供給が危ぶまれています。

よどがわ市民生協としても、日本の農業や農家を守ることは自分たちの暮らしを守ることと同じであると考え、全国食健連の請願署名に賛同し、2025年11月にカタログと一緒に署名用紙を組合員に配布しました。2026年1月末までに1万5千筆が寄せられました。この多くの人から寄せられた想いは3月に政府へ届けます。

署名は政府に対し、次の事項の実現を求めるものです。

- 米の生産と供給に政府が責任を持つこと
- 減産政策の見直しと増産への転換
- 農家を支える価格保障・所得補償
- 食料政策を輸入依存から転換し自給率向上を図ること
- 学校給食の無償化など、国民の食を支える政策の強化



集まった署名(一部)

今後も安心して食べ続けられる『食料・お米』を未来につなぐために、共に声をあげ、行動を広げていきましょう！

わたしたちにできること

現在の日本の農業のことを知り・学び、わたしたちにできることはなんですか? 上記のような署名の取り組みも1つです。さらに『年間登録米』について紹介します。



<年間登録米>

- 登録者が増えることで安定した数量を年間確保することができ、産地を守ることにつながる。
- 生産者にとって、お米が余ってもお届け先が決まっているので安心して作ることができる。
- 組合員へ米を安定してお届けすることができる(不足時にも優先的にお届けすることができる)。

※これまでは『自動注文』扱いだったため、都合でお休みすることができていましたが、『年間登録』扱いになるため、お休みする場合は、配送担当者またはコールセンターへ連絡していただく必要があります。



『年間登録米』についてのくわしい案内は、3月1回のカタログと一緒にお届けしたチラシをご覧ください。



日本の食と農業を守るためにみんなで力を合わせましょう!